

2. 新聞切り抜き

1948年(昭和23年)7月31日(土)

市町村長に議会解散権

民間人登用、自治委員会も組織

制 村 市 実 日 十 五

待望の市町村制はいよいよ八月十五日をもって効力発生することになった。民政府では公布の準備を急いでいる。新制度は九章一六三

條に亘り民主的に制定され、民政府の干渉と強制力を減少、地方自治体の機能を強化拡充し自主自立の態勢を確立普及を謀る。市町村自治体の責任が加重され、市長は市長任命権が廃止され、職権が市町村に集中されたこと、予算不成立の場合市

町村長がこれを定めること、議会が市町村長の不信任案を提出した場合市町村長は議会を解散して民意に向ふことが出来ること、農業組合、水産組合等の公共団体の活動の総合調整を実施すること、議員選挙の発案権が興へられたこと等である。市町村長の任期は四年とし、現在在の首長、議員は一九五〇年九月まで留任し、議会は定例年一回召集、臨時議会は議会の申請により、或は市町村長單獨で召集することが出来る。人民の参政権に

ついては今のごころ從來と大差ないが將來自治能力を見て市町村長解職、議会解散の請求権を興へるべきであると規定されている。新制度におおきくは市町村制の区別が無くなったことも相違点の一つである。更に民政府と協力して行政運営の円滑を期するため、地方自治委員会に知事の諮問機関として民間人を登用して組織されるが、志喜屋知事は新制度実施にあたり市町村当局の遺憾ない用意と在民の充余なる理解を要望している。

1948年（昭和23年）9月3日（金）

議会議法の起草準備に着手

中選挙区制 議員員数五五名

民政府が議会議法に草案を諮問

立法機關の誕生に先が

民政議會に立法機關としての法的性格を與ふる議會議法の制定に先んじて先づ軍政府ではその草案作製方を民政府に指示したが民政府では三十一日議會を召集該草案について全議員の意見を聴取、それに基づき法案起草に當ることになった。

十時開會知事の施政報告に
ついで直ちに議會議法草案の
諮問に移り各議員發言を行つ
たが選挙区議員發言を終了す
るにつれて改正意見があり、と
くにヤ一九項の執行機關の
議會に關する拒否権をめぐ
つて活発な意見交換、原案
成案が行われ午後五時開會

農林省農部中北部の五区
△議員員数五十五名中選挙区
にして一回選挙△條例の制
定及び改正法律の範圍内に
於て知事及び議會の營業に
依り議會の議決によつて一
れを定める△任期三年△初
回は二年△俸給議長は知事
給、副議長副知事給、その他
他部長給▽地方政府の監査
監査委員四人を置く△内二人
は議院外より▽執行機關の

議會に關する拒否権及び軍
政府の拒否権、議會の行為
が憲布告及び指令に違背し
その廢止を促す議決が公益
を害すると認め若くは收支
に關し執行に難いと認めら
るときは知事は理由を示して
再議を促しそれでも改めな
いときは軍政府の指揮を乞
うて処置する▽會議の期日
知事の招集により年四回、
会期十日以内

之まとの案
へ提出される
▽選挙区制
治委員委員に
市町村制によ
る自治委員会
委員に三十一日
の議會で眞宗
城守行氏が推
薦された

立法委員

1948年（昭和23年）9月10日（金）

版縮諸報復

（戦災沖繩が復興へスタートしてから三年、こゝに数字の面から復興の足どりをながめてみることにしよう）

▽人口 本年六月現在に於ける沖繩本島の総人口は五十四万七千九十八人（戦前の四十八万七千三百八人（増））に較べて五万九千余の増、そのうち十二万三千二十八名が終戦後の帰還者、米最近の毎月平均人口自然増加は約一千名

▽耕地 戦前四万二千三六

八町歩の耕地が現在一万七千三八町歩五二%の減、米島内生産で自給すると仮定すれば一人を九四坪で賄ふおはならぬことになら

▽家畜 馬二、七二六頭（戦前三万頭一〇%弱）、牛三、五二一頭（戦前二万二千頭一五%）、豚二、五一一頭（戦前十万二、五%）、山羊一、一八七頭（戦前十万六千二、五%）米報告もれのため真数は右数字より上廻るとみられて

▽電話 四六年五月電話架

設開始以来現在までの加入数二八四、戦前は那覇局だけで九百余全島で千二百、約四分の一

米ところが交換局数は約二倍半の二十局に増え文化施設の地方分散の一面をも語る

1948年（昭和23年）10月1日（金）

ハワイよりの豚・恙なく上陸

部落民も出勤・徹夜のお興入れ作業

コンヨウ路

既報一ハワイ連合沖
福救済会が戦災沖繩
の産業復興によせる
郷土愛の贈物五百五
十頭の豚は全会派達

の山嶽獣医師が五名の附添
で八月二十八日シヨンオ
ン号でアメリカ本土を出発
一ヶ月に亘る海の旅をおえ
二十七日正午頃恙なくホワ
イトビーチに到着、待ちか
わたせ民西政府関係では
豚船入港の報に急行、附添
の六氏と感涙の対面をおえ
たのち直ちに船おろしたか
ら、直和志村古波宮の検査

所に競々と運ばれたが全所
では民政府の日越主権獣医
師が七獣医と古波宮部落民
多数の応援で全隻徹夜の積
下し作業を行い翌二十九日
午後完了、配給の日までの
飼養管理に萬全を期してい
る、豚群は出帆二日目に大
風に逢い甲板上の豚舎を潰
され十数頭犠牲をたす善法
心をなめたが附添人の細心
な管理にいはれも元氣一杯
パークシヤー・ハンブシヤ
ー羊平均百六十斤、約二十
日飼全所で土地の飼料にな
らした上で贈主とラマの擔

示に基づいて各市町村に配給
される、なお大任を果たした
六氏は民政府の世話で当分
滞在する由、

1948年（昭和23年）12月8日（水）

免許事務所
いよいよ近く店開き

中央の七地方事務所を設置

免許事務所設置について民
政府では軍に申請中だが
く決定されるが、それは
は中央企業免許事務所を民
済部内に地方企業事務所を
左の七市所轄（指頭内は管
轄区域）に置き由緒は地
事務所經由中央事務所が免
許を決定、免許の範囲は飲
食物、衣料雑貨、住居用品
等の販売、旅館、飲食店、
浴場、写真、電気その他
販立、時計修理、靴修理
洗濯、理髪、美容、倉庫、
被小周旋、運送、金融、映
画、演芸、劇場、積米、物
品貸貸等のサービス業で商
行為を営むもの、但し自家
消費の目的で生産し時々販
売する程度は免許を要しな

- い 免許を受けたら半年以
内に開業しなければならぬ
- い
- ▽那覇（那覇、具志川、南風
原、小祿、豊見城、港、首里、
浦添、宜野湾、中城、西原）
- ▽糸満（糸満、兼城、東風平
高嶺、三和、具志頭、渡嘉敷、
座間味、渡名喜、神里、具志川
栗園）▽具志川（具志川、
勝連、與那城、波里、越来、北
中城）▽石川（石川、恩納、
読谷、北谷、金武、宜野産
久志）▽本部（本部、上本部、
今帰仁、伊原名、伊原里）
- ▽名護（名護、屋瀬、屋敷地
前地）▽大宜味（大宜味、
國頭、東）▽佐敷、知念、五
城、大里、南大東、北大東は
中央事務所直轄）

1949年（昭和24年）1月19日（水）

歳入欠陥か

四九年度民政府予算

四九会計年度（四八年四月
—四九年三月）における民
政府行政費は五三、二三一、二
七七円、これをまかなう歳
入予算は

▽通信部収入一、四七三、六一四
円▽經濟部四、四一〇、一八三
円▽財政部三九、〇一九、七九
五円新法部▽一、四〇七、一八四円△
公衆衛生部四〇、三三、四〇〇
円△公営バス二九九、三三二
〇円▽電燈料四五、七八〇円
計五三、二三一、二七七円であ
るが歳入の昨年十二月末の
実績を見ると、

▽通信部

九一五、一二三円▽經濟部三〇
四、一三一円▽財政部二〇、八
八八〇、三二七円▽司法部六
九四、三二七円▽公衆衛生部
三、六四一、五九六円▽公営バ
ス三、二六三、一三三円▽電燈
料三、五、四八六円、計二、八七
三、四六四円となつており
九カ月間延五〇％に達した
のである。あと三カ月間
に残りの五〇％約二千五百
万円を確保せねばならぬが
酒税の三カ月分へ五百万円
余、山林神下収入、家屋税
等を見積つても歳入欠陥が
予想される

1949年（昭和24年）2月9日（水）

盛斗一升の米が約五十圓に

メリケン粉は九倍になる

いよ決った新價格

全住民の最大関心事である補給食糧品の値上は二月一日からいよいよ実施されその卸價格が決定したが（小賣値は軍民兩政府で決定中）總体的に見て市價の六〇%、米は従來の値段の五七倍、メリケンが九倍、砂糖が十六、豆二十六倍の値上りである。米盛斗一升四、五ポンドと見た場合四十圓となり七%を加えて小売値が四八圓一五錢更に売上税の一割を加えて五十二圓九六錢、即ち配給米は盛斗一升が五十圓以上と計算になる。改訂卸價格一單位ポンド括弧内は旧價、米一〇圓（一円五七錢）メリケン七円五〇錢（八〇錢）

大豆二一円（八〇錢）乾豌豆大円二五錢、砂糖一五円（九一錢）粉ミルク（超）六円、粉ミルク（上）八円、イースト七円二〇錢、塩三円七五錢（八〇錢）小くろし粉三〇円、コーヒー三〇円、紅茶七〇円（二円三〇錢）やし油（一升）一五〇円、
値上げは一時的、軍務部長談

特別売上の設置と賃銀の二倍値上りにより軍務部長の待遇も改善されるが食糧品の大出回しは食費、税金等を差引くと最も貧窮者は別として一般労働者手取は僅少となりその軍務部長も不安を抱く向がありこれに対し軍務部長アンドリース中佐は語る「物価値上げも一時的なもので漸次安くなる

らう。特別売場による配給品を売るときによりその生活は或る程度保証されるのではなからと云う。

1949年（昭和24年）4月6日（水）

縦横に討議される税問題 四日間続開、軍係官も出席

民政議會

税制改正案並に一九五〇年度民政府予算案を審議する民政議會は廿九日より四日間続開、その間軍政府より世田はレスリー、財政部長最良、終日はマートン、経済部長が出席、職員の間に質疑応答があり討議の結果四八年度所得税については税賦課の算定上不備ありとし、小委員会を三地区別に各市町村長並に同議会議員との他の協力者及び左記調査要項に依る住民の事情調査を約一週間に亘って行つたう、二十九日議会議決、具體的意見書を作成知事を通じて軍政府へ提出することを決議した、調査の結果は民政府税制改正案並に四八年度税額に相当の変更を要することも予想されてゐる。

（調査要項）一九四七年当時の住民の生産状況（農、工、水）を数字的に調査するもので△（農）可耕地面積、耕地面積、作付反別、收穫高（今年一月より十二月まで）及び生産價格（公定）肥料その他の生産資材、△（漁）総取、漁業

者、議員数、一カ年における漁獲、△（工）工場数、賃金、生産高との他、△補給物資配給との相関々係、△現在の住民生活の実際、△前年の選挙権の状況、△民政府税額出の資料及び戦前の資料等の参照、課税額は隠蔽した、留銘部長の税明

1950年度

民政府税収見込内訳	
勤勞所得税	3,500 万円
事業所得税	5,366
配当利子	20
法人 抽 業 場 業	150
入 建 酒 遊 行	80
	190
	200
	150
	2,500
	300
	100
計	12,550

初日当選財政部長は財政一般に關し次の通り説明した。住民所得額を一世帯年一万八千円と見積り一二万世帯では二億六千万円（住民所得額）これに對し民政府予算は約一億五千万円で所得の七割となつてゐる。五十年年度の税収入見込額は一億二千五百万円、税外収入二千六百万円、計一億五千四百余である、一九四七年三月一（一九四八年四月の）所得税を現在徴収中であり、担税者九方三千人余との額は約四千七百万円、一人当たりの最高金額、最低は、按ずることになつた。

昔里でこの課税は大体当を得ていゝと思ふが部分的には調査の手差もある、農家の所得標準率は田畑共に七割に、分け田の一割が及当、一石八斗（四十円）最低九斗六升（二十円）、畑の等及当放量三千四百斤（千九百六十円）、最低一千五百斤（千二百三十円）とし、田畑所得の計算は田の五割、四十円、畑の千六百円を根拠とした、そのために経済部とも協力、正確に担税力を把握して財政を去すべきである、と強調、これに對し当局は正確な負担力は急には調査出来ぬ、従つて生活費を所得としてそれを基礎に計算したと答へ、議員側は不確実な数字を基礎に課税されては不安があるとし、小委員会で徹底的に民政府の資料を按ずることになつた。

1949年（昭和24年）8月21日（日）

今年度二百教室

工事費の割當決定

民文教部は五〇年度予算の學校建築費五千七百四十一万四千四百圓で校舍の恒久建築を實現すべく工務部に連絡校舍の設計工事費の見積り各町村への割當基準等を研究中であつたが十一日決定した總予算額より一千万圓は琉球大學の設立費を除き四千七百四十一万四千四百圓は初、中、高校の建築費として運用され建物は木造瓦葺平屋、一棟六教室基準になつており五教室、四教室、三教室の場合も設計されている。

高校は一教室約二四坪、初、中校は約二〇坪となつている。

中南部は直に輸入材を使い一教室一高校は十一万三千七百二十五圓、初、中校は九万六千六百六十六圓の工事費が見積られ北部は島内産材で一教室一高校十六万五千六百八

- 十六圓、初中校十四万八千三百三十三圓、同案は軍政府へ提出のため工務部で翻譯中で来月末より請負制による工事が初まらうといわれている。
- 高校は直接文教部長、初中校は市町村長を通じて學校へ割當るが割當基準は戦前の校舍を除いた教室数の八分の一である。若し予算と物價のバランスが維持できれば八年後には沖繩から假校舍は悉く開放されると言はれていて、各村の割當は左記の通り（数字は教室数）
- ▲初、中校
 - 糸滿六 兼持三 高峰三 三和五 豊見城六 小禄九 首里九 眞和志一〇 ナハ六 みなと四 南風原五 興那原三 大里五 佐敷五 知念四 玉城六 具志頭二 東風原六 浦添六 北中城五 宜野湾九 中城五 越來一〇
 - ▲高校
 - 田井等一 修理一 北山三 北盛六 開洋四 宜野湾三 邊土名三 名護ガイ語一 修理一 二
 - 讀谷一〇 か手納四 北谷五 四原六 美里九 具志川一二 勝連六 石川九 伊江五 具志川（久米島）四 仲里六 座間味三 恩納五 全武四 久志四名護六 屋脊四 羽地九 今歸仁九 本部一 二 上本部五 大宜味九 國頭九 東四

1949年（昭和24年）10月25日（火）

沖繩議會を解散 新議員十三名任命

十區域代表制・議長は知事

民政政府では十九日付沖繩民政政府政令第一號により沖繩議會を解散、新に代議諮詢機關として沖繩民政議會を設置し一九四九年八月二十日の軍政府指令第二十號に基き一、左の通り沖繩民政議會議員の代表區域を定めた、

△第一區—國頭、大宜味、東、羽地、久志、伊平屋、屋我地	△第二區—伊是名、伊江、上本部、今歸仁、本部町	△第三區—名護、屋部、恩納、金武、石川、宜野座	△第四區—越來、讀谷、北谷、嘉手納、美里	△第五區—具志川、與那城、勝連	△第六區—北中城、中城、宜野灣、浦添、西原、	△第七區—粟國、渡名喜、座間味、渡嘉敷、那覇、港、小祿	△第八區—具志川、仲里、豐見城、兼城、糸滿、高嶺	△第九區—三和、知念、具志頭、東風平、玉城、南大東、北大東、佐敷、	△第十區—大里、與那原、南風原、首里、眞和志、
△第一區—平良 仁一	△第二區—宮城 敏男	△第三區—具志堅興榮	△第四區—稻嶺 盛昌	△第五區—當銘 由伸	△第六區—平良 幸市	△第七區—具志頭得助	△第八區—赤嶺 恒春	△第九區—仲宗根朝武	△第十區—武富 セツ

定めた
 △第一區—平良 仁一
 △第二區—宮城 敏男
 △第三區—具志堅興榮
 △第四區—稻嶺 盛昌
 △第五區—當銘 由伸
 △第六區—平良 幸市
 △第七區—具志頭得助
 △第八區—赤嶺 恒春
 △第九區—仲宗根朝武
 △第十區—武富 セツ

氏らは五〇年四月一日までの一カ年

民政政府では十九日付沖繩民政政府政令第一號により沖繩議會を解散、新に代議諮詢機關として沖繩民政議會を設置し一九四九年八月二十日の軍政府指令第二十號に基き一、左の通り沖繩民政議會議員の代表區域を定めた、

△第四區—越來、讀谷、に任命しそれ／＼任期を

て三名を任命している

1949年（昭和24年）11月30日（水）

「市町村勢」調査

政治・文化各面に亘り

が 民情報部では情報連絡の資料に供するため市町村と連絡、十二月廿一日現在で次の項目にわたり市町村勢の一斑を調査することになった

一、戦後市町村の沿革、二、人口及び戸數（他市町村民にして他に移動性ある概數）三、市町そんな職員數、四、職員定數及び有權者數、五、財政Ⅱ土地、家屋、そん民各負担金、税外收入、歳出、一戸當り税負担平均額六、田、畑、原野山林の戦前戦後の面積比較、農家一戸當り平均耕作面積職業別戸數並に人口、換金の對象たるべき主要

産業及びその生産概數、産業別の生産額七、児童數、學級數、教員數、校舍狀況、その他教育団体八、被救濟者數、九、可働者總人口、軍作業員數十、全棟數、殘存家屋數規格家屋、瓦又は之に準ずるトタン葺、コンセツト、假小屋、十一、公共施設、私設建物、十二、戦後に於ける公的主要土木建築工事の規模、工事費の概要

1950年（昭和25年）2月2日（木）

無駄を省け！

婦連が生活改善運動

婦連では舊正をひかえ昨日教育かい館で婦人かい長かいを閉催、左の事項を協議し、永続的且つ根底的な生活の合理化運動を展開することになった

▽年中行事の設定▽自肅かいの設置（青連、市町村長、區長と協力し希望者を募る）▽民行政機構内に婦人部の設定を陳情▽全琉婦人かいを組織し

国際婦人連盟への加入に努力▽三月上旬總かい開催役員改選▽かい費年三エン▽未亡人の就職斡旋▽紡績技術員調査▽生活共同組合設置▽婦連事務所建設

祝儀は十圓

首里婦人會生

活改善運動

首里市婦人かいでは舊正

月を控え生活改善運動に乗り出し一月卅日在記じ項を守りましよう各區の婦人かいに呼びかけ必ず實施するよう申合せた△生年祝は六一才以上とし酒肴は三品に止め祝儀はのし袋に姓名を記入せず十圓に限定、御土産止、子供は連れていかなること、時間は十時までとし十時になつたら班ちようはその家庭にいつて時間を告げて閉かいせしむ

1950年（昭和25年）3月11日（土）

市町村に 落ちた 一億五千万圓

復興費豫算の支出額

工運部が〇年度復興豫算はあと、カ月の年度末を控えた現在の支拂済の消化額三億四千万エンで年度中に五億五千万エンは消化することになつてゐるが未消化額の約七千万エンは勞務災害保証金二千七百万エンと一般住宅の建築中止による建築費材費の若干が主なるものである、消化額中市町村に落ちる勞務、資材費は二月末日で建築費材費を除き約二億五千万エンが支拂済となつてゐる市町村別支拂状況は次の通りである（單位万エン）

復舊は十二月末、他は二月末の集計による

那覇二〇三、首里二二八、眞和志五二、具志川三三、興那婦四六、名護四六、中城四三、佐敷四二、糸満四八、今歸仁四三、屋都四九、與那婦四三、食武四〇、浦添三八、仲里三七、本郷三四、上本郷三四、石川三一、勝俣三五、宜野灣三〇、具志川（久米）三〇、小祿三三、大田三三、久志三〇、玉城三三、三和三三、宜野座二九、美里三六、越原二八、國頭三三、北谷三五、南風原三五、伊平屋二四、豊み城二四、西原三三、羽地三八、みなと二八、恩納二〇八、東風平二七、伊是名二四、大宜味二七、讀谷三六、兼城二九、伊江三九、座間味三三、高嶺三七、粟國三三、東三三、渡嘉敷二二、渡名喜二八、北中城二四、具志頭二〇、屋我地七、嘉手納七、知念六

1950年（昭和25年）4月6日（木）

校長、教頭級異動

第一次
十九名

民社會部では五日次の通り初中校の校長教頭異動の第一次發表を行つたが校長級は十一名、教頭級は八名、計十九名で三、四日中に第二次の發表があるがじん員はおよそ四十名前後といわれている（校長級異動）

新任校 現任校
 首里中校 浦添中校 祖慶 剛
 浦添中校 首里中校 教頭 與那覇政男
 嘉數中校 浦添中校 教頭 親宮祖永吉
 宜野湾中校 嘉數中校 知念 清一
 野だけ中校 宜野湾中校 仲村 春勝
 大山中初校 野だけ中校 石川ひろし
 普天間初校 大山中初校 知念 俊吉
 越来初校 諸見初校

諸見初校 比嘉 寛清
 鳥袋中初校 新城 吉光
 鳥袋中初校 コザ中校
 宜野座初校 稻嶺 盛康
 漢那初校 安富祖義徳
 喜屋武初校 喜屋武初校
 喜屋武初校 島嶺 ハル
 三和中校 糸満高校 教頭 久保田次郎

兼城初校 大岳初校 教頭 嘉手苅景勝
 首里中校 附中校 教頭 眞榮城朝歌
 浦添中校 同校 教頭 當間 賀助
 美東初校 北大東中初校 頭 今歸仁朝歌
 金武中校 同校 教頭 徳山 清良
 伊平屋中校 伊平屋初校 教頭 新崎 盛陸
 宜野座中校長 兼同初校 長 兼職を解く 中山 興真

1950年(昭和25年) 7月23日(日)

現地打診

民政議員選挙(中部地区)

噂の人は五名

主流は殆んど教育畑

第四区

越来村 越来村に上つている、越来村から民主同盟の桑江朝幸氏も出馬する模様、讀谷では比嘉秀傳氏(元校長)が噂に上つているが、讀谷はつきりしていない、美里村には川上清八氏(農組長)説がある

北谷村、嘉手納村、美里村、越来村の大山朝常氏(教育長)が教育界及び村民から推されている模様、北谷、嘉手納に呼びかける動きがあるが北谷村の現村長稻嶺盛昌氏も問題

競争激甚の地

第五区

具志川 二名種立候補者が出る見込みである、勝連村の志井清康氏(元議員)と奥田殿氏も噂に上つている、奥那城村では新垣金造氏とその反対派から一名は出馬する見込、五区は立候補者が濫立して激戦になる見方が強い、以前より選挙の場合この地方は競争が激甚である

浦添動きなし

仲村女史は断念か

第六区

北中城村、中城村、宜野湾村、浦添村、西原村

中城村長渡嘉敷眞佐久氏が教育界から推される模様で、北中、中城は従来田嶋春雨氏の噂があるが、動きはまだ表面化していない、西原村では現村長平良幸市氏も選挙に出る見込みあり、一方宮城氏の噂もあつた、浦添村はまだ噂さへされておらず、人物もないようだが西原と宜野湾の奮い合いになるか

前より選挙の場合この地方は競争が激甚である

1950年（昭和25年）7月25日（火）

用紙、印刷など

軍へ便宜方依頼

選挙用紙

市町村長、市町村議員、知事、群島議員と四つの選挙が九月に行われることになり、とりわけ

知事、群島議員の場合には選挙運動に使用する用紙類、印刷等で困難を感じることも出て来るものと

予想されるので、専ら知事は若し希望者があれば普天間の軍印刷所で用紙印刷等の便宜を圖つて貰うようロスゲブ軍政官に希望した、これに對しては口軍政官はマケイ琉球軍政官に相談の上返事する旨答えた

1950年(昭和25年) 9月5日(火)

戦争の白黒争い
 氏が立候補しては、力事件は見られなかつた、又選挙がすめばお互に手を握り合つて村政に協力する

な村
 重務課 職を展開したが、終始空々たるフエアア

か野
 長瀬 率を演じ理想選挙を實現した、即ち演説も候補者の政見發表を中心に行われ、恐ろしい人身攻撃や暴

和宜
 伊佐真一

III 今は昔の夢 III
 論、文書 どの和やかな空気に包まれて居り、政治意識の昂揚と相俟つて、戦前の様なみにい白黒争いはも早實現すまいといわれて

氣をもむ知事候補

開票結果で新戦術へ

緊張する平良兩事務所

市町村長選挙の結果は、天原Q.M部隊の支配人、知事選挙にも大きな影響がある。開票の結果、平良、松岡兩選挙事務所のぞくとむが派の勝利を企じて、緊張、情勢、開始来最も切迫した空気に包まれていた、この結果を見て互に胸算用がある様態で新に秘策をねつているが中立抱込み、地盤切崩し等今侯の攻防戦が見ものとなつた、選挙事務所では運動のためすつかり出払つて留守番が一人がらばつていた

任され現在に至る
 △知念清一氏 四六歳、大正十四年初等教育界に於て活躍、現在宜野湾初等校長、副校長、地区教育文化部長の要職にある
 △岩屋武盛氏 六十二歳、農林卒、元沖繩物産検査所勤務、職後二期助役、現在に至る
 △大工朝盛氏 四十六歳、農林卒、元台灣製糖会社、台灣總督府勤務、職後引あげ二期助役

市町村長選挙の結果は、天原Q.M部隊の支配人、知事選挙にも大きな影響がある。開票の結果、平良、松岡兩選挙事務所のぞくとむが派の勝利を企じて、緊張、情勢、開始来最も切迫した空気に包まれていた、この結果を見て互に胸算用がある様態で新に秘策をねつているが中立抱込み、地盤切崩し等今侯の攻防戦が見ものとなつた、選挙事務所では運動のためすつかり出払つて留守番が一人がらばつていた

新市町村長の略歴

△川前喜雄氏 本年五才二中卒業後ハワイに渡航ホテルで勉學を積み實業界で活躍、昭和二十二年で帰郷、終戦後は金武、胡差、A.J等の軍部隊に通譯として勤務現在

1950年（昭和25年）11月26日（日）

窮迫つげる地方財政 待ちあぐむ平衡交付金

予算の大半賄う「住民割」

現在の市町村は財源に乏しく、都市町村とのそぎ殆どが市町村民割、土地割、家賃割に依存しているが特に市町村民割に依存度が高くなる各都市町村の市町村民割のパーセンテージは左表（地方財務課調）の通りである。那覇、真和志等の比較的財源

東風年	三、五八〇
高嶺	二、七〇〇
具志堅	三、三〇〇
玉城	三、〇〇〇
知念	三、〇〇〇
佐敷	三、〇〇〇
大里	四、六〇〇
南風原	四、六〇〇
真和志	三、七〇〇
奥那原	三、七〇〇
兼見城	三、七〇〇
兼城	三、七〇〇

座間味	六、三三〇
仲里	三、〇〇〇
具志川	三、〇〇〇
粟國	三、〇〇〇
波名喜	三、〇〇〇
伊平屋	三、〇〇〇
伊是名	三、〇〇〇
浦添	三、〇〇〇
宜野湾	三、〇〇〇
北谷	三、〇〇〇
嘉手納	三、〇〇〇
美里	三、〇〇〇
石川	三、〇〇〇
具志川	三、〇〇〇
藤原	三、〇〇〇
中城	三、〇〇〇
北中城	三、〇〇〇

西原	三、六五〇
名護	三、〇〇〇
恩納	三、〇〇〇
久志	三、〇〇〇
宜野座	三、〇〇〇
東頭	三、〇〇〇
入宜味	三、〇〇〇
羽地	三、〇〇〇
屋我地	三、〇〇〇
今歸仁	三、〇〇〇
本部	三、〇〇〇
上本部	三、〇〇〇
伊江	三、〇〇〇
南大東	三、〇〇〇
北大東	三、〇〇〇

右によると具志川村の財源を他に求めることの出発点、町村が多く

かゝる町村に財政破綻の傾向が強い点から中央政府において何らかの援助の手が打たるべきであるとされ市町村会あたりで盛んに要望、平衡交付金制度という問題が表面化して来た、現状では中央政府自体、財政問題では頭をなやましては実情であるが地方財政の確立なくして中央財政の確立なしとの見地から當局においても同制度の實現については考慮が拂われつつある

1952年（昭和27年）1月6日（日）

村のため四十三年

**宜野湾の新風翁表彰
優良農組「育ての親」**

旧農業組合を切替え、新勢足した宜野湾村農協組では年末の二十九日第一回臨時總會を開いたが席上六十三才の高令に達するまで理事二カ年組合長十四カ年を務めたその間産業組合時代の昭和十一年及び昨年、農運五周年記念に亘り優秀組合として表彰されるまで育てあげた前組合長新堀正博さん（農）に對し感謝状と記念品をおくりその功を賞した。同氏は明治四十二年二十一才のとき村役所に入り以來二十七年間、職、職、職、一年助役を最後に、組合の育成に乗り出したもので、それだけに村政にも明るく四十二年と明るいのが、この大半を村の振興に盡くしたひとである。同組合員から惜しまれながらバトンを後継に引渡し、同氏は目下宜野湾區の自宅で野菜作りなどして、悠々自適の境地に落着いていゝが、こつと一心に仕事と取り組むといつたり大したこともありません、現在の組合員は軍作業の關係で足が浮いてるので今後、貯蓄と増資を計らねばならぬでしょう、という簡単に感嘆と抱負を語る顔は満足そうであった。

◆

1952年（昭和27年）1月14日（月）

**「お米作り」記録破る
五石二斗余で一か**

宜野湾共進會の田里友一氏

宜野湾村産業共進會は個人上原區東間政久氏、十三日晝天、終て開か（巴）が知事賞は伊佐獲得、式終了後相撲、れ、審査の結果農林省、區田里友一、大山區宮、總裁賞は間作長田區、里政三郎、喜友名區我めた。

成績で特に輝いたのは知事賞の田里友一氏で水稲一期作坪当たり農技會で反當り五石二斗八升と戦後かつてみない全統最高の多收かくを示した。これは一般平均反收一石余の突に五倍で昨年優勝の興那城村平安山賞氏の四石六斗一升九合をはるかに上廻つてゐる。農林省では目下全統的に検討中であるが確定すれば、五石以上の成績を示したものは終業の特別賞を授與するとの規定に従つて褒賞されるものとみられてゐる。畜産では一九八斤のとき購入、九カ月間に五百餘斤となつて肉豚の一等となつた我如古區末吉龜助氏のインブシャー雜種や戦後米國から入つてきた今では殆ど見當らないという肉用最適の牛ヘビアン種（赤毛）等が特に人目をひいた。

1952年(昭和27年) 3月4日(火)

立法院議員選舉得票数一覧

▶ 第四選挙区 ◀

与那城、勝連、は4日前1時現在未確定

平良市	桃原島町	新運会	喜友名町	平	文官	仲村	真崎	石原	長浜	天	山	城	喜友名
川	58	54	100	1,249	2,902	61	6	521	495	67	1,470	317	57
浦	2,446	1,877	6	6	83	148	0	15	11	20	17	48	17
西	3,050	13	7	27	13	22	1	6	1	14	0	322	0
中	813	378	7	8	56	2,336	0	11	2	12	19	489	6
宜野湾	115	5,374	28	336	62	324	5	11	19	42	4	134	109
北中	25	210	14	48	27	3,298	0	9	0	3	40	28	15
北谷	11	23	12	1,588	8	10	0	2	3	8	17	22	2,146
瀬手	3	36	2	3,105	10	0	0	6	1	0	5	27	2
勝	0	60	15	38	236	20	0	5	0	1	7,396	8	10
来	20	299	39	749	102	76	5	180	29	43	32	5,394	365
美	10	17	33	24	406	16	9	6,029	95	116	47	65	12
志	73	65	66	0	407	38	41	249	4,228	6,754	174	89	17
与那	217	50	5,150	0	26	26	700	34	788	141	47	100	0
勝	738	6	2,400	5	18	157	47	213	978	359	55	1	7
計	7,579	8,469	7,879	7,181	4,356	6,532	814	7,291	6,630	7,580	9,323	7,024	2,763

(第六位は議決未確定のため四日前一時現在未確定)

石原昌淳
喜友名朝誓



七、五八八
天願朝順
(無・六)



七、七五六
平良幸市
(無・四)



七、八六六
新垣金造
(無・五)



八、四四七
桃原竜郎
(無・四)



九、二六一
当因真志
(無・六)

第四区 中部 定員6名



1953年（昭和28年）1月7日（水）

教育費の市町村負担割合

琉球16%・本土30%

本土のおよそ半分

琉球教育法によつて委員会制度が出来て九月、教育の民主化をめぐつてつくりだされたこの制度は法の不備と市町村長協議会の

は本土でも七月おくれで去る十一月に発足したので、文教局研究調査課では去年文部省で調査した「地方教育費の調査報告書」によつて、琉球の各区教育委員会の調査結果を調査し、本土の

委教育費の実態を調査、本土の市町村の負担している教育費と琉球のそれとを比較検討した。調査表によつて本土の市町村教育費総額の財源の種類別百分比をみると、全国の教育費総額を百分比として

- △公費合計八五・六三%（内訳△国庫補助三・七七%△都道府県支出金五二・一一%△市町村支出金一九・七五%）
- △寄附六・〇七%△学校徴収金一・五四%△起債三・七六%

区教育委員会の調査結果などもあり、さらに、財政負担と重なりあつて将来を危ぶむ向も見られるが、各市町村の教育委員会制度

琉球で問題になつてゐる全国の市町村支出金は平均二九・七五%で府県の最高は滋賀県の三八・二%、最低が鹿児島県の二〇・〇六%となつてゐる。これに対し五三年度の琉球各

む（並びに区教育委員會両方の中、政府に報告済の四二カ町村の調査の平均をみると、政府補助が八三・八八%、市町村支出金が一六・一一%となつてゐる。全市町村からの資料がまとまつていないので最高と最低はつきりしないが、市町村費に対する委員会の比率（報告済四二カ町村）の最高は宮古竹富の二五%、最低は宜野湾村の四%である。ところがこの調査には寄附や学校徴収金は入れてないために、若しこれを調査して日本と同様に総教育費に対する市町村支出金のパーセンテージを出せば、つと低い百分比が出るものと予想される。なお、これにつき又教員では「どちらでは教育設備や校舍問題がある、この数字で住民がどの程度の教育費を負担出来るかという基準にはならぬ」とのべてゐる。

△△

1953年（昭和28年）2月15日（日）

“軍用地にこれ以上とらないうて”

宜野湾村から政府に歎願書

々軍用地として耕地や草地がとられたり農作物の撤去を命ぜられたりで生活が不安になつてくるから軍と折衝して満処してもらいたいと十三百宜野湾村々

長及び議長、議員、地主代表らが連署で歎願書を政府宛提出してきた。その旨は次のとおり

宜野湾村は総面積三百二十九方呎坪のうち三三%が現在軍用地として使用されているので耕作にま

り、残る六八%も三三%は軍用地

定地として赤線区域となつてお

結局五四%がとられている。幸

これまで軍用地で使つていな

いところは農耕ができたが、最近

この予定地内に次々と軍施設が出

来るようになり、農作物や草地の

撤去が命ぜられている。そのため

これらの農作物により生計をた

ていた人々に次第に生活が不安

なつて来ている。又無地も立派料

として与えられるのは不足である

こうしてどんどん農耕地が精めら

れている際、取られている農家の

食糧資源である村大謝名原、安

仁屋原一帯の田圃も軍用地として

先占となれば、これは村民の生活

を支えている唯一の最少限の食糧

資源だけに生活はますます不安

なる。だからこれだけは何とか保

1956年（昭和31年）5月25日（金）

伊佐浜の人達を救援

三輪車に一杯、芋や人参

二十四日午後二時頃、小嶺村有志八人、人参六十斤、芋二十斤、ソーヤ、節等から、上原本通（秋五右衛門）メン一桶であり、最近、戸詰り二倍佐浜の有志、田原及藤氏は一週輪車に一杯、人参、芋など、田にまき字があつたので伊佐浜の有志はあまり困乏しないので、返す言葉もありません。其志の人々を援助して生きのびようか、作物も高さが多く、田原通が農家の不安になつていただけ、十六のものをさえたない状態です。芋と人参は、約九十名の人は総じて出迎、供養も学校の往復には必要物資を渡され、祖先の徳に感謝するまで、いりたり買ひ取りしなればならぬ。

小嶺村有志八人、人参六十斤、芋二十斤、ソーヤ、節等から、上原本通（秋五右衛門）メン一桶であり、最近、戸詰り二倍佐浜の有志、田原及藤氏は一週輪車に一杯、人参、芋など、田にまき字があつたので伊佐浜の有志はあまり困乏しないので、返す言葉もありません。其志の人々を援助して生きのびようか、作物も高さが多く、田原通が農家の不安になつていただけ、十六のものをさえたない状態です。芋と人参は、約九十名の人は総じて出迎、供養も学校の往復には必要物資を渡され、祖先の徳に感謝するまで、いりたり買ひ取りしなればならぬ。



伊佐浜に贈られた人参、芋、野菜と伊佐浜の人達

1959年（昭和34年）1月6日（火）

中部の学校敷地料

移住資金での補助陳情

【コサ】中部市町委員会（会長 かつては、国政教も法的
大山副常任）では、中部の各市
村の学校敷地料を移住資金か
ら補助してもらうよう国政教に
陳情することになった。中部の
ほとんどの市村は、毎年、多
額の学校敷地料を払っている
が、二、三が住み慣れた市村も
さらにあり、地主は不満をもち
している現状である。国政では
国政、金額などの補助を返付中
に定めてる予定。移住資金から
の補助に成功すれば学校敷地料を
買上げ、従来を払っていた多
額の敷地料が、学校敷地の充実に
使われていくことになる。問題に移
住資金に該当するかどうかにか

初詣でにぎわう

○……美大調神宮……○

【宜野湾】新年を迎えたが地方で
はまたまた旧正月中心のため新年は
めでたく、お祝所や学校、金柱
員、子供たちの晴れ着姿がチラチ
ラ見られる程度で、わずかに
所見らしいところがうかがえた。
○それでも、美大調神宮は、新
年を迎えるにあつて参拝者は昨年
よりふえ、除夜の鐘の鳴り響くこ
ろからお参りの人たちがひっきり
なしにつめかけた。
千本用意してあった福餅も祝詞け
きでは売り切れてはつ日の出ま
でにぎわった。

1960年（昭和35年）1月4日（月）

1960年に托す 中部各市村の初夢

希望の一九六〇年度を迎えた中部各市村では、村民特選の上水道事業完成、観光立村の実現、道路、電
 灯問題など文化にたち進んだ切實の振興、一大都市圏と共闘の年々たくす各市村の夢はつみな
 い、五年は相づく台風にうらめされ、シエラト機事故、女給殺し、暗い不祥な事件に明け暮れた
 一年だった。それだけに中部の新年を迎える表情には暗い過去をかりきって希望を見いだそうとする
 真剣さがある。また、福岡市として各展途にある中部の市村には「もし、夢が叶うならば……」と、
 前塵したすばらしい将来の情景もあふんだ。六〇年度こそ、最良の年でわれと奮闘し、各市村の一
 年の大和と愉快な初夢を聞いてみた。

観光立村や都計推進 実現したい水道と電化

（宜野湾） 村民特選の上
 水道事業が新
 豊島々に実現、五月から普天間地
 区を中心とする五地区に給水す
 る。宜野湾総合市計画の第一歩
 を踏み出すという点で意義深い。

1960年（昭和35年）1月11日（月）

ヘリコプター 民家近くに墜落

宜野湾村で部落民騒ぐ

【コザ】宜野湾村に米海軍のヘリコプターが墜落、部落中を騒動させるという事件が起きた。十日ひる四時四十五分ごろ、宜野湾村宜野海四二〇番地玉那覇秀

夫さん（三十九）方のイモ畑に米海軍所属ヘリコプターUH-1H三〇〇六四号が機首を突っこむようにして墜落した。落した場所は民家しゅう落から十

ほど離れていない地点、西方十がシゲさん（五）を一家の住い。たらずのところに向宇一八番地渡、目撃者の証にともなう同機は北方から普天間飛行場へ向けて進んできたが、約五百が先から低空し、前

ひっ切って墜落したという。幸い付近の人家にも被害はなく、乗員も無事だったが、落ちた時は爆発するやいなや首をだし、家中がゆれたこのことで付近の人たちは恐怖にふるえていた。事故の後、暗くなるまで救援のヘリコプター数機が墜落をかすめて飛び、人々の恐怖を一層つららせていた。大塚シゲさんの話、家族三人ですが、みんなでお茶を飲んでいたら、突然ものすごい爆音に家中がゆれ、仏壇の位牌も倒れました。回事かごととび出してみると、すぐ側にヘリコプターが落ちていたのです。石川のジェット機事故を思い出して、あちためて胸をなでおろしたものです。もし墜根の上にも落ちたかと考えると不安でたまりません。【写真】民家のそばに落ちたヘリコプター

1961年（昭和36年）11月9日（木）

1961年（昭和36年）11月23日（木）

村議会が抗議決議

宜野湾小交
流れ弾事件

でもふたび現場調査を行い
事件の原因を追及している。

【コザ】宜野湾小中校（晋夫間朝英校長）で授業中教室へとびこんだげん銃弾事件は、同村議会（崎間健一郎議長）でも問題を直視、十八日緊急臨時議会を招集、現場調査を行なった。

その結果、議会では事件の真相を追及すると同時に関係当局に協力を要請、ちかく対策をたてることになった。また軍C I D

拳銃弾とびこむ

宜野湾小中校、授業中に

【コザ】七ヶ浜町立宜野湾小中校校長 同校小一二年組（児童四十人）の授業中、北側の窓ガラスが破れ、口銃弾が教室の中を飛び交った。北側の窓ガラスが破れ、口銃弾が教室の中を飛び交った。北側の窓ガラスが破れ、口銃弾が教室の中を飛び交った。

て六教室一七〇の一階北が
三番目、原田、田ん
ほ、畑が、屋敷や家
はは、と、みられ、

授業もできぬ

狙撃隊の先生が「一時は
目のわりで銃弾の飛び交った。狙撃隊の先生が「一時は目のわりで銃弾の飛び交った。狙撃隊の先生が「一時は目のわりで銃弾の飛び交った。」

たいへんな問題だ

また、コソリートの柱が突
き出して、たまたま四番目に居
ていた子どもが当たって死なな
ければ、その後子どもは飛行
機の音をきくとびてくたくた
に授業もできなくなるとい
う。

カミコさん

堪まり関係当局へ嚴重に学校を
くんで、無様な落射取り難
る。要請する。カミコさん
の事件を徹底に追及して、い
ち早く解決するよう要請す
る。

1962年(昭和37年)4月5日(木)

市昇格を提案

宜野湾村が臨時議会に

【宜野湾】市昇格準備をすすめている宜野湾村では、このほど市昇格準備書をまとめて四日開会し臨時議会に提案、政府へ提出することになった。市昇格理由は、同村「将来の発展性」から「村の沿革」「村のなごを三丁のプリントに盛り上げたもので、都市としての発展性を強調している。

市昇格の理由書としては「主要道路の拡充などしており、米軍施設が村周辺にあつて労働市場も近く住民生活も安定して居住民も増えてきた。住民生活の向上とあわせて観光も推進、観光、文化都市としての発展が図られており、都市建設の促進もすすめてきた」と説明している。

【野見】市昇格準備をすすめている野見村では、このほど市昇格準備書をまとめて四日開会し臨時議会に提案、政府へ提出することになった。市昇格理由は、同村「将来の発展性」から「村の沿革」「村のなごを三丁のプリントに盛り上げたもので、都市としての発展性を強調している。

【野見】市昇格準備をすすめている野見村では、このほど市昇格準備書をまとめて四日開会し臨時議会に提案、政府へ提出することになった。市昇格理由は、同村「将来の発展性」から「村の沿革」「村のなごを三丁のプリントに盛り上げたもので、都市としての発展性を強調している。

【野見】市昇格準備をすすめている野見村では、このほど市昇格準備書をまとめて四日開会し臨時議会に提案、政府へ提出することになった。市昇格理由は、同村「将来の発展性」から「村の沿革」「村のなごを三丁のプリントに盛り上げたもので、都市としての発展性を強調している。

ておりほとんどの土地が利用され、人口は急増の勢いにある。なお六二年一月末現在の人口は三万一千三百四十五人で世帯数が八千九十七となっている。

（鑑査）人口の増大とともに大企業の地方分散の傾向を反映して一層線沿いが都心よりの便利さから生産加工業もだいに発展してきている。

（野見）同村は六〇年三月十三日政府から都市計画法の適用市町村として指定され、その後同村は住宅、公園、郊外その他の地域特定をなし町々と準備もすすむれ、また本土から専門業者の意見を聞くなど任まひ町づくりも行なわれている。

普天間市か 吉野市に

【野見】七月一日を目標に市

昇格の準備を急いでいる宜野湾村では三日午後四時から投票所、階で市名を決定諮問協議会を開き、普天間市と吉野市との二つの名称を決定四日から開かれた議会にかけることになった。当日の諮問協議会には村の長老、建設委員、学識経験者、議会議員など有志約四十人も招かれ参事意見を聞いた。

同村の市昇格は、さる三月で諸準備も終わり、あとは市の名称を待つだけで好く手続き申請が行なわれる。

ところで同村の新しい市名は、いま難航しており、議会の三分の二の賛同が得られないと現在の宜野湾村の名称に市名が落ち替く公算が大きい。

いっぽうこうした市名案のモタつきに対し、村民の間では、野見村は普天間を中心に栄えた町であり、普天間市と名乗るのが当然であるという声が多い。また現在、モタつている市名は普天間市と吉野市の二つで普天間という地名は広く全統にも知られ、対外的にも新しい市名を名乗るよりは普天間市にしたほうが便利であるという。

1963年（昭和38年）4月18日（木）

政府案支持できぬ

行政委員会

市町村財政改正法 与野党の意見一致

市町村財政改正法（昭和三十一年法律第三十三号）の施行期は、昭和三十三年四月一日である。この法律は、市町村の財政を整理し、地方自治の発展を促進することを目的として制定されたものである。この法律は、市町村の財政を整理し、地方自治の発展を促進することを目的として制定されたものである。

市町村財政改正法は、市町村の財政を整理し、地方自治の発展を促進することを目的として制定されたものである。この法律は、市町村の財政を整理し、地方自治の発展を促進することを目的として制定されたものである。この法律は、市町村の財政を整理し、地方自治の発展を促進することを目的として制定されたものである。

市町村財政改正法

市町村財政改正法は、市町村の財政を整理し、地方自治の発展を促進することを目的として制定されたものである。この法律は、市町村の財政を整理し、地方自治の発展を促進することを目的として制定されたものである。

分を記すべきだ。
 閣僚久藤長 確からず市町村財政第十条の負担の明確化に施する規定は中興で動いていなり。
 知事朝野氏（無所属）この案は、問題の多い教育制度の普及をたじろけても、行政府が統一的な態度で取り組まざるを得ない。教育財政改正法市町村財政と密接な関係があるから、文教局も関係する必要がある。

1964年（昭和39年）2月7日（金）

“清潔な私たちの部落”

大山区が第二日曜に清掃検査

【宜野湾】生活環境の美化が、いろいろと進められているが、宜野湾市大山区では、婦人会が中心になって定期清掃検査日を設けて生活環境の美化に努める。大山区内でも積極的な衛生部落をつくりあげている。

○大山区の清掃検査日は、区議会のとおり決めで毎週土曜日となっている。この日は婦人会の役員が一早一軒家庭を見てまわり、台所の衛生状況、排水などすみずみまで点検している。また、区長と婦人会役員はおもに道路、溝などの清掃状況を見てまわり、各家庭ごとの取組を促している。それをもち、年間衛生優良賞を各通りごとにするなど、徹底した取り組みのための取組をのぞいても、衛生検査が行きとどき気がよくなる。道路に落ちたゴミも拾って見つけ大人がすぐ自発的に拾って捨てるほどに、おらが区をきれいにしていくという観念が、いよいよ

たっている。このように、区全体が衛生観念につらぬかれているため、きれいな好きの外人「山十軒」もこの部落内に住居を構え、購入としての生活をしており、孫米の子どもが仲よくまわり投げかけたり、ブランコ遊びをしている風景もみられる。

区長の眞藤通信さんは「ドラマカン製のチリ入れを三十五個づつ部落内においてある。この処理費は一世帯あたり月十ほどの衛生費を話していた。

また、同区は事務所をキーステイションに上り、愛の時報をもうけ、児童生徒の遊び時間、散歩時間、または連絡事項などをマイクでおし、散歩中に通報、補助正しい日常生活をおくっている。



宜野湾市大山区のチリ箱

.....

でまがなっている。市の予算も少ないので、区で簡易処理業者と契約を結び、一日一回は必ず回収してもらっている」と同区の清掃状況を話していた。